

健康

くらし

女性を悩ます病気

<1>

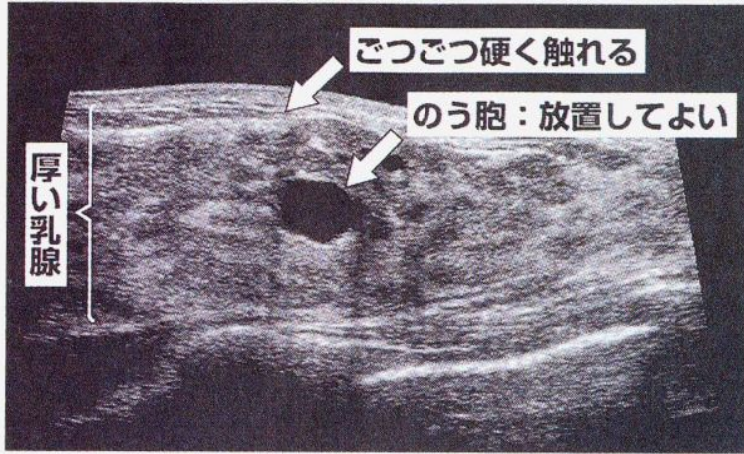
ることがある。日本医科大学大付属病院(東京都)乳腺科の芳賀駿介教授は「基本的には病気ではなく、治療の必要はありません」と話す。

乳腺は、乳汁を作り、それを運ぶ組織から成るが、加齢に伴ってほとんどが脂肪になっていく。その変化の道筋から、横道にそれる場合がある。

「女性を悩ます病気」シリーズでは、女性特有の病気、あるいは女性に多い病気を取り上げ、症状や治療法などを紹介していく。1回目は乳腺症。乳房に痛みを感じたり、ごろごろしたものが触れたりするため、心配になって受診すると乳腺症と言われる。

すると、乳腺の組織が厚くなったり、のう胞と呼ばれる分泌液がたまった部分ができたりするなど、いろいろな変化が見られる。時には乳首から分泌物が出たりすることもある。こうした状態を総称して乳腺症という。

乳腺症の典型的な超音波画像
(日本医科大付属病院の芳賀教授提供)



生理の時に症状が表れやすく、閉経した後は軽くなる傾向もあって、女性ホルモンバランスによって起こることもいわれているが、原因はよく分かっていない。

乳腺症は多くの成人女性に多少なりとも起きている

がんとは大半が無関係

現象で、基本的には病気ではないので治療の必要はない。「実際、こう説明するだけで痛みが気にならなくなる患者さんが少なくありません」と芳賀教授。

かつて乳腺症は「前がん状態」と言われていた時代があったが、今はごく一部の变化を除けば乳がんとは無関係という。

注意が必要な変化とは、乳腺上皮の増殖とその細胞が正常のものやや異なっている場合だ。これらは乳がんになるリスクが高いといわれている。そのため、がんとの区別が必要で、太い針で組織を採る針生検などが行われる。しかし組織診断が難しく、乳腺専門の病理医に診てもらうことが必要になる。

がんに関連してもう一つ注意しなければならぬのは、乳腺症を意識することで乳がんの発生を見落とす可能性があることだ。

芳賀教授は「触診によって、硬い乳腺症の中から硬いがんを見つけるのは難しいので、年に1回はマンモグラフィ(乳房エックス線検査)や超音波による検診を励行することが大切です」と強調している。

乳腺症